

3 各エリアの出土遺物

町場エリアでは井戸から大量の土師質土器の皿・小皿が出土し、宴会儀礼や祭祀が行われたものと考えられます。珠洲焼の片口鉢や青磁碗が少量あるほか、 笹神古窯跡産の押印が残る瓷器系陶器の甕も確認できます。さらに、井戸から「三百石」と書かれた木簡が出土しました。

流通エリアでは 笹神古窯跡産の瓷器系陶器の比率が高いほか、奈良産と見られる瓦器の輪花火鉢や風炉といった流通品が出土する点が特徴です。

居館エリアでは中国天目や青磁合子・白磁碗などの貴重な舶載品が出土しました。

各エリアの性格を示すように出土遺物の特徴が異なります。



土師質土器皿・小皿(H27)



青磁碗・白磁皿・珠洲焼片口鉢など(H27)



押印のある瓷器系陶器(H27)



瓦器輪花火鉢(H26)



瓦器風炉(H26)



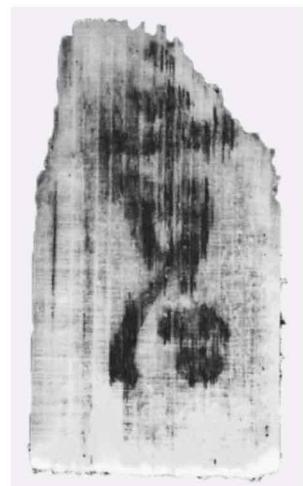
青磁合子(H21)



中国天目・瀬戸美濃天目(H21)



白磁碗(H21)



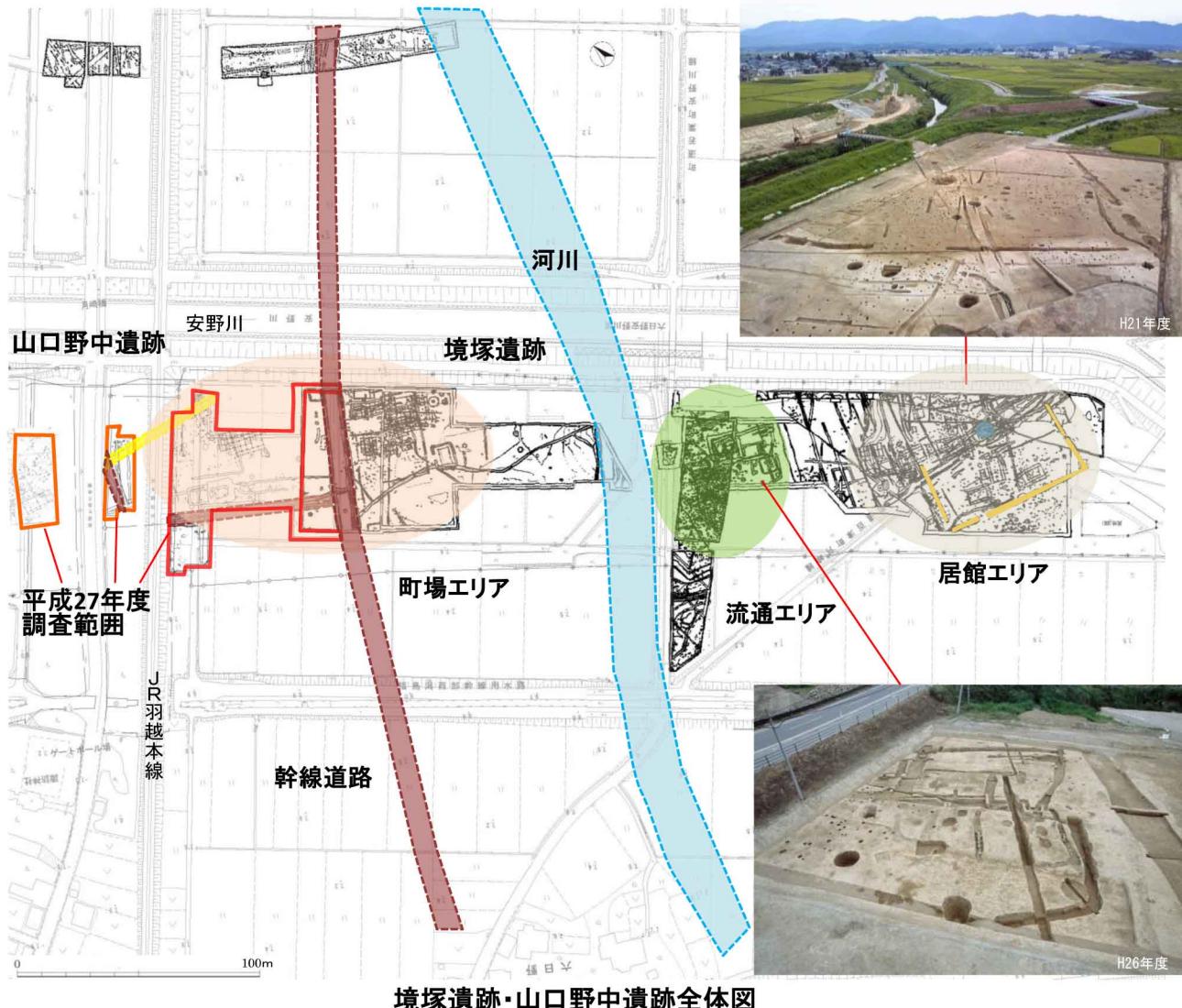
木簡「三百石」(H26)



境塚遺跡・山口野中遺跡と周辺の中世遺跡の位置

さかいづか やまぐちのなか 境塚遺跡・山口野中遺跡 現地説明会

～阿賀野川の川湊と幹線道路に築かれた鎌倉時代の町～



1 概要

境塚遺跡（阿賀野市百津字境塚地内）及び山口野中遺跡（阿賀野市月崎地内）の発掘調査は、国道49号阿賀野バイパス建設に伴い平成27年4月から行っています。調査面積は境塚遺跡が約7,300m²、山口野中遺跡が約2,300m²です。遺跡は旧阿賀野川によって形成された自然堤防上に立地し、標高は約7mです。

これまでの調査で、鎌倉時代（13世紀後半～14世紀前半）を中心とする遺構・遺物が見つかりました。境塚遺跡では幹線道路の周囲から規模の大きな掘立柱建物や、皿が大量に捨てられた井戸、方形周溝状遺構、方形竪穴遺構などが見つかりました。また、山口野中遺跡では境塚遺跡から続く堀や道が見つかりました。平成21・26・27年度の3か年にわたる調査を総合すると、南北に360m以上伸びる幅6mの幹線道路を基軸として、東西約400mの幅で町場エリア・流通エリア・居館エリアの存在が想定されます。遺跡は阿賀野川の旧河道である百津潟の川湊と幹線道路を中心にして築かれた町と推定されます。

平成27年6月27日（土）

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
株式会社 ノガミ・株式会社 古田組